



サンタさんだ、お姉ちゃんが  
欲しいとお願ひしたら

お姉ちゃんサンタが来てくれました。

お姉ちゃんサンタは、どっさり微笑みながら  
スカートの中をほくど身せてけてきます…。





「おっぱいも…見たい?」

お姉ちゃんさんには、耳でほくほくと囁かれます。  
ほくほくさんさん顔です、お胸をちゃんと叩きました。





たみんど、大きなお胸がごぼれ落ちます。  
ぼくはお姉ちゃんさんへのおっはようを贈りますよ...









「うーっほー」

お姉ちゃんさんからは、ぱんつをきまらさるひんましました。  
するぞ、女のひとの大事なアソコが少くはなみ出で...





「じつちも気になるでしょ？」

また顔きたかったのですが、初めて見るアングロを  
凝視しちゃって返事ができませんでした…





「ふふ…おちんちん苦しそうだよ?」

お姉ちゃんさんごは、ぼくのガチゴチになった  
おちんちんをぞつと撫でてます…



「ねえ、こっちはおいでよ」

お姉ちゃんさんへは  
ぼくを膝枕して  
いっしょに  
赤ちゃん扱い  
してくださいませ…

「ほら…おっぱい吸って良いよ…♡」





夢中で何度も吸い付きました。  
唾液でぐしょぐしょになります……そして  
お口の中でお姉ちゃんさんの乳房が  
だんだん硬くなつていくのを感じます。

「ふふ……ほんとに赤ちゃんみたい……  
でもこっちは……すうっと力チ力チだね♡」

痛いくらいに勃起したほくの赤ちゃんを  
さわさわと撫でてくれます……  
指先が触れるたびに、腰とおちんちんが  
びくんと跳ねてしまつて恥ずかいです。



「今、きもちよくくしてあげるね…」

お姉ちゃんサングラスは  
ぼくの頭を撫でながら  
おちんちんを上下に  
しごきます。

指で作った輪っかが  
カリの部分をひっかけながら  
通過するのがたまらなそうです…

「にちやにちやしてきている…えっちなね♡」



お姉ちゃんさんの  
手の動きが早くなります。  
どなたもどなたもやらしっぱ音が響いて  
ぼくはお乳を揉みながら  
もつもつと乳首を  
吸い付きます…

「あ…っん…♡  
おっぱい…きもちい…♡」

女の人の艶っぽい声をきいて  
ぼくは…もう…



「ぎゅってカタくなつた…もうイツちゃう？  
いいよ…おっぱい吸いながら  
精液びゆるるって出しちゃお？」

「ほらっ…イツって♡」







「あっぱは…っ 出たあ♪  
ドクドクいってるう…♡」

女の人は…  
あんなに…  
あんなに…  
あんなに…  
あんなに…  
あんなに…  
あんなに…  
あんなに…  
あんなに…  
あんなに…





「ふふ…いっぱい  
射精してえらいね…  
お姉ちゃんの手  
どろどろになっちゃった」

そう言いながら、お姉ちゃんせんぱいは  
自分のおっぱいを、お姉ちゃんの手で揉みたくります。

「そのおちんちん…次は  
おっぱいではさんであげる♥」



お姉ちゃんさんからは、ぼくの股の間に入り込み  
その大きなおっぱいでおちんちんを包み込みました。

「ふふ…アツツいねおちんちん♥」

射精したばかりなのだよ、おっぱいの感触で暖かくて  
むくむくとまた硬くなるんだよ、おっぱい。





「あはー おつきくなるまでばふばふして  
遊ぼうと思ってたのに…もう復活してる♥  
えっちなちんちんだあ…」

お姉ちゃんさんとは、愉快そうに  
おっぱいをむすんでほくのちんちんを摩擦しますわ…





「おきゅん♡」

左右からきゅんきゅんときゅんきゅん。尻をかくてきゅんきゅん。すまません。やわらかならぶのふんふん優しく締の付けられる…こんな感触は…初めて…！

「きもちいい顔してるね月  
じゃあお姉ちゃんのパイズリ、  
味わってみて♡」





あ  
あ

たばたばとあつぱつを上下に揺らして  
ぽくのちんちんを擦り上げると姉ちゃんさん...

「イレてるみたいでしょ？  
…ってキミはまだ知らないんだっけ」

あつぱつ...



お姉ちゃんさんるはニニニしながら  
おっぱいをたぐんだぐんとぼくの  
股間の上で弾ませます。

「ガマンしなくて良いからね  
いつでもお姉ちゃんのおっぱいの中に出て良いよお」









「あはっ……」

「出たあ……おっぱいの中あったかあい……  
お姉ちゃんのおっぱいの中、もっとなんなん  
なっちやっただよ……♡  
……見てみる？」





お姉ちゃんほ、ゆーくーとほいほいを左右に  
開いてくさませます…

ぼくが出した精液がまじりまじり殺せられて  
お姉ちゃんのおまんこはほろほろとながらうさばか…

「ふふ…えっちなね…  
ねえ…まだがんばれる？  
もう一回おちんちんおつきくでできるならあ…  
お姉ちゃんのコト、きもちよくしてみる…？」



お姉ちゃんさん、は、大き〜脚を開いてぼくを誘ってきます...

「おっぱい、きゅっこんこん...」

ぼくは、自分だけの乳を  
お姉ちゃんさん、は、おっぱいを  
探みさせていただきます...



「ふふ…サンタのおっぱいには、夢とプレゼントが  
いっぱいつまってるんだよお…だからいっぱいモミモミして  
プレゼントを受け取ってね…♡」

おっぱいを揉まされる  
お姉ちゃんさんへのほんとうの  
じわじわなプレゼント♡

「脱がせて…」



お姉ちゃんさんたちが切なげな声を聞きます...

「おちんちん...」





僕は、このお尻を握るキレキレの感触に、  
おちんちんをお姉ちゃんさんの股間に入ってます。

「そのまま…良いよ…  
ナマで入れて…っ」

お姉ちゃんさん、お尻の感触が、  
おちんちんをずっと握り取って  
濡れたワレメで擦ってあげて…

「JJJ…おん…」



ぬぐぬぐとほくのおちんちんが  
お姉ちゃんさんへの甲に飲み込まれてくさまわ...

「あ あっ...くるっ...  
あっつい...そのまま  
奥までできてえ...」

お姉ちゃんさんへの甲はぬぐぬぐと  
熱くてやわらかくて きまじい...  
入れただけでもっ.....



「ゆっくり動いてみて…  
おちんちん出し入れして？」

ぼくは腰を引いて、入回まで戻って…  
また腰を出して根本まで入れて…  
引いて…入れて…引いて…入れて…



女の人のその声を聴くとき、じんじん興奮して  
腰が止まらなくなっちゃいます...

出し入れするたびに  
お姉ちゃんさんたちは  
甘い声を漏らします。

「おもちもち...  
じゅわわ...もっもっ...」

「んんん♡」

「あーん...」

「あーん」



「あっん…少し早くなつた…良いよお  
もつと…激しく…してえ…♡」

お姉ちゃんサンタは、奥まで入れて  
ぐりぐりした時にちゅぽん  
えっちな声を聞きます…

「あひっ…それ…  
それきもち…いっ…♡  
もつとっ もつと  
突いてえ！」

でも、お姉ちゃんサンタがきもちほら、時は早くもくもく  
やまゆぐで、だんだんがむがむなうなりなうなり…  
お姉ちゃんサンタの腰の動がなうなりなうなり…



「んっ…ふ…出ちゃいそっつ？  
いいよお…お姉ちゃんの中でイッちゃお？」

お姉ちゃんのこと…甲で…

「最後は…思いっきり激しく…  
ガンガン突きまくってイッつて？」

お姉ちゃんさんには、胸をぼくの腰にからめてホルド  
してきたので、ぼくもきまってるお姉ちゃんを抱きしめました。  
そっつ…





「あっ！ あんっ！ ひっ…んッ  
いいよっ…いいいっ…すっ…いいい…  
お姉ちゃんもイキそっ…！」



ぽんぽんと思いつきら股間と股間を  
ぶっつけのこも姉ちゃんのお尻を突きまへんかった。  
もう…腰が止まるな！…！

「そのままでっ！ そのまま中に吐いてっ！  
奥に…その奥にっ！」







はぁ……はぁ……はぁ……はぁ……

「あ……ふ……イツちやつ……たあ……♡  
なかに出てくるぅ……おちんちんがどくどくするん  
いつてるぅ……♡」

お姉ちゃん……早く……早く……早く……早く……



お姉ちゃんさんへは、中をきまらなくて舞の付けで  
インナーはからの、敏感なほくのちんちんを…貴女にキマホ…

「ふふっ…びくんびくんしてる…  
かわいい♥  
それじゃあ、ゆーっくり  
おちんちん抜いてみて?」

ぼくは、言われた通りゆーっくりとお姉ちゃんの体内から  
ぼくの一部分を引き抜きます…



「あは…いっぱい出たね…」

お姉ちゃんさん、お尻の穴から、ぼくが中に出した  
白く液がまんまん溢れてきます…

「メリークリスマス♥  
お姉ちゃんさんからのプレゼントは  
気に入ってくれたかなあ？」

ぼくは、頷きながら汗だくのお姉ちゃんさんを抱きしめました。